

平成30年度 文教福祉環境常任委員会行政視察報告

平成30年10月22日（月）～ 24日（水）

- ① 東京おもちゃ美術館（新宿区）
- ② コミュニティ・スクール（杉並区）
- ③ 子どもセンター「まあち」（町田市）
- ④ 文化創造拠点施設「シリウス」（神奈川県大和市）
- ⑤ 地域包括ケアシステム（埼玉県和光市）



委員長
副委員長

松葉
森腰
黒木
近藤
富井
柏田
長友

進一
英信
金喜
勝久
寿一
公和
麻奈美

随員職員



①東京都新宿区 東京おもちゃ美術館「ウッdstart」

◇東京おもちゃ美術館を視察した背景は？

日向市が全国に誇れる森林資源、その有効な活用と、重点施策として展開しているヘルシースタート事業における子育て支援の環境づくりを融合できる取り組みとして「ウッdstart事業」の情報を掴んだ。「ウッdstart事業」の中心的な役割を担っている東京おもちゃ美術館の視察を行った。



①東京都新宿区 東京おもちゃ美術館「ウッdstart」

◇「ウッdstart」とは?

「ウッdstart事業」とは、木の力を使って、子どもの育ちに取り組んでいく木育を推進している活動の一つである。世界特許のもと、人生最初のステージである生まれたばかりの赤ちゃんに、木のおもちゃをプレゼントし豊かな子育て環境を作っていく活動。6項目の事業があり、おもちゃ美術館が中心的な役割を担っている。その中の一つである誕生祝い品事業は、地産地消の木のおもちゃを新生児にプレゼントする事業で、ウッdstart宣言市区町村の必須事業となっている。現在39自治体（うち脱退2）が参加している。



■ 東京おもちゃ美術館

「東京おもちゃ美術館」は、認定NPO法人「芸術と遊び創造協会」が運営する、様々な世代の方がおもちゃを媒介に「遊んで」「作って」「体験して」自然と楽しいコミュニケーションがとれる空間です。

➤ ①体験型 ②多世代交流

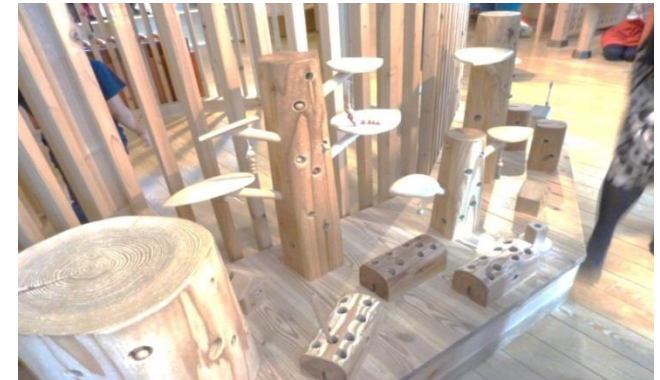
③市民立(お金の寄付と時間の寄付) が特徴

➤用地は小学校跡地を借用し、家賃光熱費として1,000万円の支払い。

➤年間約15万人の来館者があり、採算ベースを上回っている。

➤入館料は大人800円、子ども500円。一度入館料を払えば、その日は何回でも出入りできる。

➤スタッフは有償ボランティアと正職員併せて40数名。
イニシャルコストは1億円弱。



■ 東京おもちゃ美術館

◇ 設立の経緯は？

新宿区に進出するきっかけは、小学校跡地で空き校舎の半分を利用して、地域の人達からの思いがあり、地域に関係するNPO法人として進出した。水面下では、当時の中野区長(女性)の思い「おもちゃ美術館が欲しい」ことが影響しているとの説明であった。



■ 東京おもちゃ美術館

◇各委員の所感①

- 本市においても、豊かな地域資源を活用し、ウッドスタートを始め地域資源の活性化を図っていく必要があるのではないかと。
- 平日にも関わらず多数の子育て世代が訪れていた。木のおもちゃは温もりがあり、ゲームに興じている現代の子ども達には大変有益であると感じた。
- 木を育てるという視点から、新しいライフスタイル・価値観を確立している。市民を巻き込み「木育」による地域活性化、そして親子の居場所づくりを担っている。

■ 東京おもちゃ美術館

◇各委員の所感②

- 予想に反してすごい。幼児や母親がゆっくりとくつろいでいる風景は、ほっとする感触だ。
- 本市も森林環境贈与税が平成31年度から交付される事などから、本市の木を利用した木工加工品（1歳の誕生日に押し車、入学祝いに木の額縁など）の活用を図る必要がある。
- 子どもが育つ環境に木を取り入れていくことで、木の良さ（魅力）を知ってもらう大きなきっかけにもなる。また、木のもつ可能性も広がると思う。身近なところから暮らしに木を取り入れていく取り組みが本市にも必要と感じる。

②東京都杉並区 コミュニティ・スクール

地域と共にある学校

◇杉並区 視察の背景は？

平成31年度から、日向市も各小中学校にコミュニティ・スクール、学校運営協議会制度を導入することが明らかになった。平成17年4月から全国に先がけてコミュニティ・スクールを導入した、東京都杉並区を視察し、導入による効果について聞いてみた。

■コミュニティ・スクール

地域と共にある学校

◇導入のきっかけは？

平成16年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正を受けて、教育委員会主導で始まり、平成17年4月から区内4つの学校に「学校運営協議会」を設置し、地域運営学校(コミュニティ・スクール)としてスタートした。

◇成果は？

- ①学校運営方針の策定等で、地域住民・保護者等の意見や要望が反映されることが進んだ。
- ②児童生徒の実態や地域の特性を踏まえた教育活動が進み、活性化が図られている。

■コミュニティ・スクール

地域と共にある学校

◇特色は？

- ①学校運営協議会の委員は、教育委員会が任命する「非常勤職員」の位置付けで、公募委員4名も含まれる。公募委員は広報紙で募集し、作文と面接で決定。
- ②学校運営協議会を「頭脳集団」として、実働部隊となる学校支援本部が設置されている。

■コミュニティ・スクール

地域と共にある学校

◇各委員の所感（１）

- 先進地である杉並区のコミュニティ・スクールでは、メンバーの選出法として公募制の採用や、土曜日授業でメンバーの授業参観、その後の会議開催等でメンバーのモチベーションも高まり、有意義な運営に繋がっているのではと感じる。



■コミュニティ・スクール

地域と共にある学校

◇各委員の所感（２）

- 全体的な感想として、人口が多いことが学校運営協議会の設置には有利だ。学校に協力することに、協力的な人がいればこそその形が出来ると感じた。
- 杉並区は、学校支援本部と学校運営協議会の２つで教育現場を支援している。約５７万人という人口規模なので可能であると感じた。教育現場に理解をし、熱い思いをもつ人材育成がカギだと感じる。



■コミュニティ・スクール

地域と共にある学校

◇各委員の所感（３）

- コミュニティ・スクールは地域と共に学校を作り上げる点から、本市でもモデル校の検討が必要である。
- この組織は単に導入すれば良いというものではない。じっくりと丁寧に協議を重ねることが大事だ。
- 「いい町は、いい学校を作る」という考え方に共鳴する。



③町田市 子どもセンター「まあち」

小中高生徒の居場所づくり

◇視察を実施した背景は？

日向市内で、乳幼児や小学生、中学生が自由に集える場所はないと考えたときに、思い当たらない。そんな時に東京都町田市で子どもの居場所づくり事業を展開している情報を掴んだ。

◇町田市子どもセンター「まあち」とは？（１）

設立のきっかけは、町田市には子どもに関する施設がなく、市民から要望が上がった。1996年「町田市子どもセンター基本構想」を策定。基本とするコンセプトは、乳幼児から18歳の高校生まで使用できる施設にすることが、建設に関する会議「子ども委員会」で提案された。高校生の自主性を尊重する形で、夜9時までの時間帯で使用できることになった。

■子どもセンター「まあち」

小中高生徒の居場所づくり

◇町田市子どもセンター「まあち」とは？（2）

- 建築総事業費は7億5,700万円
- 必要経費は年間8,767万円
- 運営は直営で、正職員6名、臨時職員3名、嘱託員1名
- 使用状況は、児童館は小学生中心となるが、
午前中は乳幼児
15時～18時は小学生
17時～21時が中高生
と、すみ分けがされている。
- 使用全般にわたっての合言葉
「ケガと弁当は自分持ち」



■子どもセンター「まあち」

小中高生徒の居場所づくり

◇各委員の所感（１）

- 「まあち」は中心市街地に近いという立地条件から、小学生だけでなく、乳幼児とその保護者、中学生、高校生の居場所としての機能を充実させていることは評価に値する。
- 施設のにも大変すばらしいものだ。日向市でも必要と思うが、イニシャルコスト(約7億5千万円)、ランニングコストともに高額で、現状では厳しいと思う。不登校の子ども達の居場所や、勉強する場としての活用が実現していることを考えると、日向市内のあらゆる施設を有効活用し、同等の空間づくりが必要ではないか。

■子どもセンター「まあち」

小中高生徒の居場所づくり

◇各委員の所感（２）

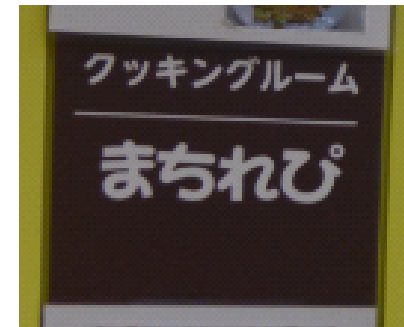
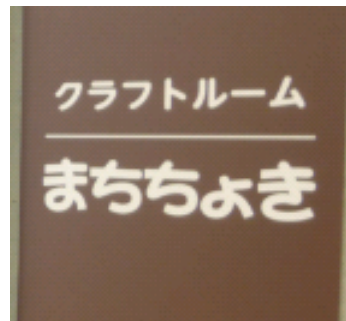
- センターの運営システムに「子ども委員会」が確立されていて、子ども達の自主性でもって企画していることは特色の一つだ。
- 「まあち」は、市の直営で運営されている。日向市では財源が問題になるのではないかと。子ども主体で居場所づくりしていることは参考になる。
- 災害時には、帰宅困難者の収容施設としても利用できる施設である。人口の多少に関わらず日向市でも考えないと。

■子どもセンター「まあち」

小中高生徒の居場所づくり

◇各委員の所感（3）

- 子どもたちが集える施設として、また、居場所として良い施設であった。本市で考えた場合、財政面の厳しさもあるが、同等の施設でなくとも、このような空間は必要であると感じる。



④神奈川県大和市 文化創造拠点施設「シリウス」

図書館機能を併せた複合施設

◆視察を実施した背景は？

日向市図書館開館20周年記念で講演をいただいた佐藤涼子氏(品川区図書館長)から、一見すべきとの情報を得た。日向市の図書館も建て替えの時期が迫っており、財政的な視点からも複合化が想定される為に視察を行った。



■文化創造拠点施設「シリウス」

図書館機能を併せた複合施設

◇シリウスの実態は？（１）

- 2016年11月にオープン。当初は商業・住宅の再開発予定地であったが、景気変動の影響もあり、図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場を中心とした文化複合施設として建設。
- 開館1年後の11月には入館者300万人を突破。2年目となる今年度も、すでに300万人を超えている。



■文化創造拠点施設「シリウス」

図書館機能を併せた複合施設

◇シリウスの実態は？（2）

- 施設の90%は大和市が所有。
- 管理・運営は指定管理者(6社による共同企業体)で行っている。指定管理料金は7億9,800万円。
- 休館日は大晦日と正月の1日のみ。開館時間は9時～21時と長時間設定になっている。
- 1階から5階までの各階に図書が置いてある。本は館内のどこでも読むことができ、飲み物、食べ物は自由。おしゃべりも可とし、規制に縛られない居場所となっている。



■文化創造拠点施設「シリウス」

図書館機能を併せた複合施設

◇各委員の所感（１）

- 施設全体を一つの図書館空間としており、誰もが利用しやすいゾーン化が図られていることは参考になった。
- 日向市から見れば羨ましい建物である。複合化での図書館建て替えを想定するのであれば、参考にできる部分があった。
- 複合施設として、図書館以外に芸術文化ホール等もあり、市民にとっては利用しやすい施設だと感じた。



■文化創造拠点施設「シリウス」

図書館機能を併せた複合施設

◇各委員の所感（２）

- なんとも素晴らしい施設だ。人口が多く、交通の便が良い都会だからできるのではないかな。運営面では参考になることは多い。
- とりあえず圧巻。これほどの図書館があれば嬉しいが、正直難しいと感じた。ただ、コンセプトや考え方などには共感できる部分があるため、参考にしながら本市に置き換えていきたい。
- こどもの居場所づくりの図書館等必要と思うが、本市の場合、財源確保が課題。良い補助事業等あれば取り組むべき。



⑤埼玉県和光市 地域包括ケアシステムの取り組み

先進地 和光市で学ぶ

◇視察の経緯は？

文教福祉環境常任委員会では、かねてより地域包括ケアシステムの先進地である和光市の視察研修を計画していたが、視察希望自治体が多く、実現できなかった。今回、高齢者あんしん課の全面的な協力で視察が可能になったが、単独ではなく、他の5自治体との合同研修になった。



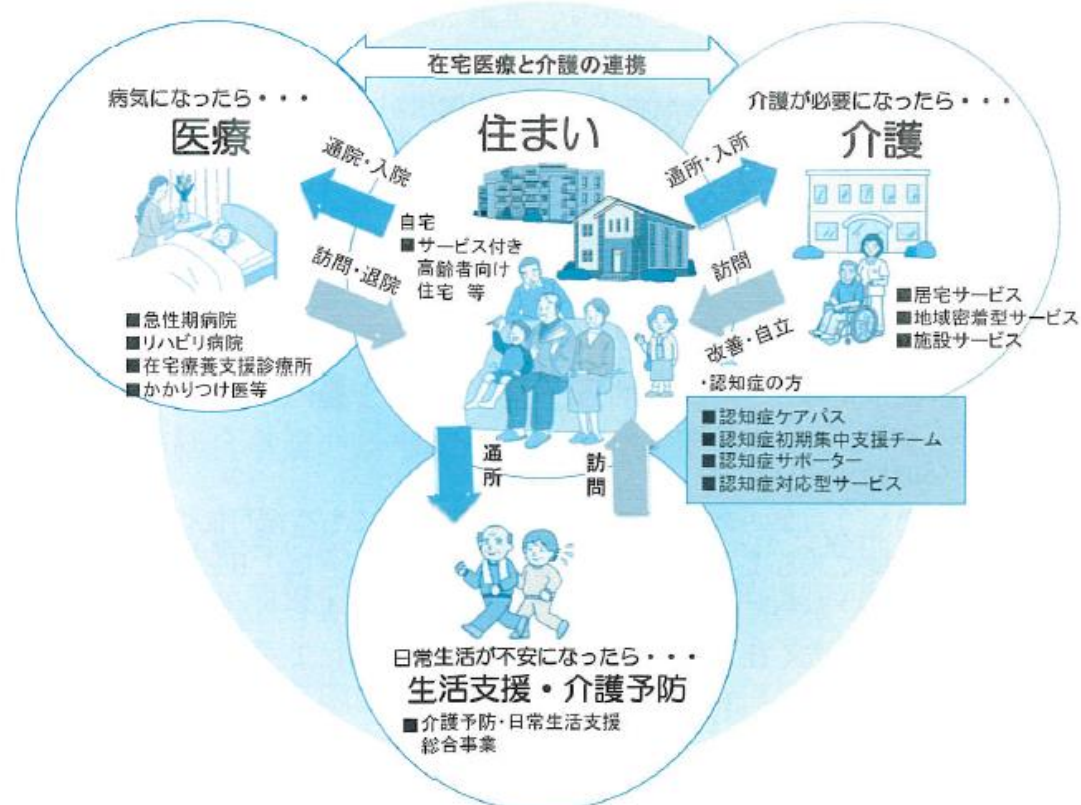
※和光市長寿あんしんプラン（地域包括ケア計画書）から引用

■ 地域包括ケアシステムの取り組み

先進地 和光市で学ぶ

◇ 課題解決に向けた連携のあり方

図表 地域包括ケアシステムのイメージ（和光市版）



■ 地域包括ケアシステムの取り組み

先進地 和光市で学ぶ

◇ スマイル・サポート・持続可能性を求めて

<基本理念>

健やかに暮らしみんなで支え合うまち

<基本目標>

地域包括ケアシステムの完全機能化による
市民の生活の質（QOL）の向上

※QOL（Quality Of Life）…どれだけ人間らしい生活や自分らしい生活を送り、人生に幸福を見出しているか、ということをも尺度としてとらえる概念のこと。

■ 地域包括ケアシステムの取り組み

先進地 和光市で学ぶ

◇ 特色は？

- マクロ(市役所の計画策定) とミクロ(地域包括支援)がうまく繋がっていること。高齢者の圏域ニーズ調査の精度が高い。徹底している。
- 高齢者の生活課題解決に向け、職員の庁内の縦割りの壁をなくすことの意識が高い。
- 高齢者介護分野に精通した職員がいたことで、全体の仕組みが構築できた。
- 地域包括ケアシステムと各計画が連動するように、同じ考え方で策定されている。
- ニーズ調査は外部委託で行っているが、内容は行政で主導している。

■ 地域包括ケアシステムの取り組み

先進地 和光市で学ぶ

◇ 各委員の所感（１）

- 最大の強みは、制度設計に秀でたリーダーがいることだと理解する。
また、そのリーダーを後押しするトップの理解力も大きいと感じた。
- 和光市の地域ケア制度を確固たるものにした指導者の手腕が素晴らしいと感じた。
- 施設にあって在宅にないものを考え、安心して過ごせるような環境整備に取り組んでいることは評価に値する。
- 事業の組み立て、現状把握、きめ細やかなサービス等学ぶことは多かった。

■ 地域包括ケアシステムの取り組み

先進地 和光市で学ぶ

◇ 各委員の所感（２）

- 非常に参考になるが、介護保健に関わる市職員や地域包括関係者の意識改革、サービス利用者、家族の理解など課題がある。
- 介護予防や自立支援をいかに行き、介護状態にしないか。本市でも取り組んでいるが、和光市のきめ細かなサービスには驚いた。市民への徹底したニーズ調査など、学ぶべきことは多くあったと感じる。



平成30年度 文教福祉環境常任委員会行政視察報告

ご清聴ありがとうございました。